

アディポネクチン血中濃度検査について

質問(井上雅敏議員)生活習慣改善のため健康長寿ホルモン「アディポネクチン」の血中濃度検査について伺います。

答弁(市長)生活習慣病予防及び改善には、バランスのよい食事と適度な運動が重要であります。生活習慣病の改善は個人により問題が異なるため、個別の検診結果データや生活状況に応じて、本市独自に作成した資料をもとに、成人の一般的な基準量や個人に応じた食事量、食べる順序等、実

際的な食事療法と運動習慣獲得のための個別支援とアドバイスを行っております。また、個別の生活習慣の改善等の確認や評価につきましては、特定保健指導として国の指導のもとに体脂肪及び体重測定、血圧、腹囲測定等を実施するとともに、医療機関に受診している方は脂質や血糖、肝機能等の血液検査を上乗せして行っております。血液は正直であり、体重を現在の5%減少させることで、血圧や血液内容等が確実に

改善されてまいります。本市の特定健康診査は、国が定めた検査項目に、本市の健康課題の分析により必要な検査の上乗せや追加を行い、より充実した内容になっていと思っております。今後とも市民の健康状態を分析し、生活習慣病予防対策として重要な検査項目を積極的に導入しながら、特定健康診査、特定保健指導の充実を図ってまいりたいと考えております。アディポネクチン血中濃度検査につきましても、今後の経過を見きわめながら推進をしてまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどお願いを申し上げます。



鳥獣被害は年々深刻化しています

鳥獣管理士について

質問(高崎和夫議員)鳥獣管理士に鳥獣被害対策への協力をお願いすることについて伺います。

答弁(産業文化部長)県内における農林業の鳥獣被害は、年々深刻化し、特に里山地域での営農活動、あるいは生産意欲に多大な影響を与えているため、鳥獣被害対策は喫緊の課題となっております。そうしたことから新聞報道等にもありましたとおり、平成二十一年十月宇都宮大学と栃木県が連携して、被害地域で指導的な役割

を果たすことのできる鳥獣被害対策の専門知識と技術の習得を目的とした里山野生鳥獣管理技術者養成プログラムを開講し、約一年間の過程を経て、このたび十七名の鳥獣管理士が誕生いたしました。その中には本市在住の二名の方も鳥獣管理士として認定されております。

本市といたしましても、鳥獣による農林業被害は後を絶たず、毎年市単独補助や県補助事業等を活用し、また急を要する現地での対応には地元猟友会の方々にお世話になりながら、鳥獣被害対策に取り組んでいるところであります。身近に鳥獣被害対策の専門家が誕生したことは大変心強く感じているところであります。被害対策で最も重要なのは、被害を受けている地域の方々のご心と身近な取り組みが大切だと考えておりますので、今後は積極的に情報を提供し、地域ぐるみの鳥獣被害対策に鳥獣管理士のご指導とご協力をいただきたいと思います。



必要な検査の上乗せや追加を行っています